

**11. ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/
SC 13(防護服)/WG(作業部会) 活動報告**

11.1 WG 1 防護服の一般特性

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 1

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

<p>1. 国際会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023/9/11 PG 19382 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本)又はWeb参加 ・ 2023/9/11 PG 24231, 24232 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本) 又はWeb参加 ・ 2023/9/15 WG 1 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本) ・ 2023/9/15 SC 13 総会 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本) ・ 2024/2/15 WG 1 @Zoom <p>2. 国内作業部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023/7/25 WG1第一回作業部会 ・ 投票案件等の必要に応じ、メール審議実施
--

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP*1	WG*2	CD*3	DIS*4	DTR*5	FDIS*6	SR*7	CIB*8	WDRL*9	その他 *10
0	1	0	2	0	1	1	2	0	0

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting,
*5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting),
*9: Withdrawal consultation *10: その他(ISO 投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称(英文)	回答期日	回答内容
DIS	ISO/DIS 24231	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	2023/4/6	Approval
DIS	ISO/DIS 24232	Protective clothing – Protection against rain	2023/4/6	Approval
CIB	ISO/TC94/SC13 N2092	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension	2023/5/18	Approve
CIB	ISO/TC94/SC13 N2090	Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader	2023/5/31	Yes
WG	ISO TR 19382	ISO TR 19382 Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests	2023/8/25	エキスパートごとに投票

SR	ISO 20471:2013 (vers 2)	High visibility clothing — Test methods and requirements	2023/9/2	Revise/Amend
FDIS	ISO/FDIS 24231	Protective clothing — Protection against rain — Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	2024/3/25	Approval with corrections'

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
1回	1回	3回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 1/TR 19382	2023/9/11	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	1名
WG 1/PG Rain(24231, 24232)	2023/9/11	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	1名
WG 1meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	0名
SC 13 plenary meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	11名
		Zoom	0名
WG 1/TR 19382	2024/2/15	Zoom	4名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
1回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 *12
WG1 第一回作業部会	2023年7月25日	アゼアス株式会社 /Web(Microsoft Teams)	16名

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023 年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
0回	0回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 *13

*13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 24231	発行年月日： 2023/01/12 投票期日： 2023/04/06
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	
タイトル (日本語)	防護服—降雨に対する防護—上方からの大量の液滴に対する完成品試験方法(人工降雨試験)	
規格内容	<p>中国からの新規国際標準化提案。ヨーロッパで既に運用されているEN 14360を基礎としている。マネキンにレインウェアを着用させ、5m上方から、大量の液滴を浴びせ、レインウェア内側への漏れの有無を確認する試験方法。</p> <p>規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき</p> <p>序文</p> <p>1 適用範囲</p> <p>2 引用規格</p> <p>3 用語及び定義</p> <p>4 原理</p> <p>5 テストデバイス</p> <p>6 マネキンの着衣と配置</p> <p>7 試験方法</p> <p>8 試験報告書</p> <p>附属書A(参考) レインシミュレーションの一般的なバックグラウンド</p> <p>附属書B(規定) 漂白されたテキスタイルの吸収性</p> <p>参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	我が国は賛成投票を行った。 賛成多数で可決された。(賛成 20 か国、反対0か国、棄権 15 か国)	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 24232	発行年月日： 2023/01/12 投票期日： 2023/04/06
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against rain	
タイトル (日本語)	防護服－降雨に対する防護	
規格内容	<p>中国からの新規国際標準化提案。ヨーロッパで既に運用されている EN 343 を基礎としている。降雨に対する防護服に関する材料、縫合部、表示などの性能要求事項を規定している。</p> <p>規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 性能評価及び性能要求事項 5 試験方法 6 サイズ 7 マーキング及び表示 8 製造業者が提供する情報</p> <p>附属書 A(参考) 着用時間に関する推奨事項 附属書 B(参考) 燃料及びオイルへの片側暴露試験装置 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	我が国は賛成投票を行った。 賛成多数で可決された。(賛成 21 か国、反対 0 か国、棄権 14 か国)	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB: Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension	発行年月日: 2022/04/19 投票期日: 2023/05/18
タイトル (英語)	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension	
タイトル (日本語)	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9 か月延長	
規格内容	ISO 24231(降雨に対する防護服の完成品試験方法)及び ISO 24232(降雨に対する防護服の性能要求事項)は、CD 投票が可決され、DIS 段階まで審議ステージが進んでいる。2023 年 4 月 6 日には DIS 投票が締め切られ、賛成多数で可決される見込みであるが、審議の過程で、①ウィーン協定のもとこれらの二つの規格を EN ISO として制定するための投票、②中国と欧州との共同プロジェクトリーダーの任命投票、③欧州の HAS コンサルタントからのコメント対応などに時間がかかったため、予定よりも審議が遅れている。予め設定された規格の成立期限までに規格を成立させないと、規格が自動的にキャンセル(廃案)されてしまうルールが ISO にはあるため、規格が自動キャンセルされないようにするため、今回の投票では、成立期限を 9 か月延長させることが提案され、その賛否が問われた。	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	我が国は賛成投票を行った。 投票の結果、賛成多数で可決された。	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB: Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader	発行年月日： 2022/04/19 投票期日： 2023/05/31
タイトル (英語)	Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader	
タイトル (日本語)	Draft Red 731/2023 – ISO/DIS 24232 新プロジェクトリーダー	
規格内容	<p>本案件では、中国から推薦された Cai Zhong 氏を、ISO 24232 のプロジェクトリーダーに指名することへの賛否が問われた。</p> <p>※ISO 24232 は、中国が新規国際標準化を提案し、推進している。ヨーロッパで運用されている EN 343 を基礎としており、降雨に対する防護服に関する材料、縫合部、表示などの性能要求事項を規定している。</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	<p>我が国は賛成投票を行った。</p> <p>投票の結果、賛成多数で可決された。</p>	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO TR 19382	発行年月日： 2023/06/28 投票期日： 2023/08/25
タイトル (英語)	Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests	
タイトル (日本語)	実用性能試験における快適性評価のための人による検証(妥当性確認)のガイドライン	
規格内容	<p>本案件は 2022 年 9 月 26 日開催の WG6 会議にて韓国が新規提案した、感染性病原体に対する防護服に焦点を当てた内容だったが、WG 1 に移管し、SC13 全体にかかわる TR(標準報告書)とすることになった。今回、2023 年 9 月の上田会議にて内容を審議するために、WG1 のエキスパートあてに意見照会が行われた。</p> <p>個人用保護具(PPE)を装着した作業者が実用性能試験を行った際に、どの位動けるか、不快ではないかを評価する方法が記載されている。異なる防護服や PPE の性能を比較するために用いることを意図している。</p> <p>※ISO 規格とは違って、TR には、推奨事項や要求事項を含めることができない。</p> <p>主な目次は次のとおり。 序文、1 適用範囲、2 引用規格、3 用語及び定義 4 テストアンサンプルの一般要求事項 5 試験のためのサンプリング、前処理、コンディショニング 5.1 防護装備のサンプリング及び量、5.2 前処理及びコンディショニング 6 姿勢の制限テスト 7 実用性能試験 7.1 一般 7.2 被験者(7.2.1 安全性と倫理性、7.2.2 被験者の数及びサイズ、7.2.3 ドキュメンテーション、7.2.4 水分補給の状態) 7.3 試験環境 7.4 試験手順 7.5 測定項目(7.5.1 環境モニタリング、7.5.2(名称未定)、7.5.3 生理的快適性測定(オプション)、7.5.4 コンプリート時間、7.5.5 エルゴノミック及びデザインの基本機能評価 7.5.6 目視評価) 8 評価及び試験報告書、附属書 A、附属書 B、参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	<p>WG1 国内エキスパートがそれぞれ回答を行った。</p> <p>回答例: 今回の草案に記載されている実用性能試験を行って測定しても差は出ないため無意味になるとの懸念がある。実用性能試験の内容はその試験の目的によって決められるべきであり、本文には測定方法のみ記載すべきである。色々な防護服があり、行う動作が異なり被験者に与えられる負荷は異なるはずなので、実用性能試験については、その例を参考情報として附属書に列挙すべき。</p>	
対応する JIS 規格の有無		

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR/ ISO 20471:2013 (vers 2)	発行年月日： 2022/04/15 投票期日： 2023/09/02
タイトル (英語)	High visibility clothing – Test methods and requirements	
タイトル (日本語)	高視認性安全服	
規格内容	<p>この規格は 2013 年に成立した高視認性安全服の製品規格であり、2016 年に追補が発行されている。2017 年に定期見直し投票が行われ、日本から、JIS と ISO とで異なる箇所、例えばアンサンブルの重ね位置などについての修正提案を行ったが、国際会議における議論の結果、採用されず改正が見送られた経緯がある。その後一定期間(5 年)が経過したため、今回再度、定期見直し投票が行われることになり、プロジェクトリーダー及びエキスパートも募られた。</p> <p>本規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1. 適用範囲 2. 引用規格:ISO 18 本、EN 1 本、CIE 2 本 3. 用語と定義 4. デザイン 5. バックグラウンド材料、非蛍光材料及び複合機能材料の要求事項 6. 前処理(負荷試験)後の再帰反射材料及び複合機能材料の測光性能要求事項 7. 試験方法 8. 表示 9. 取扱説明書 附属書 A(参考) リスク水準情報 附属書 B(規定) 工業用洗濯試験時の帯状再帰反射材のジャケットへの取り付け位置 附属書 C(規定) 湿潤時における再帰反射性能の測定方法 附属書 D(参考) 高視認性衣服のデザインガイドライン 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	<p>4.1 意匠(デザイン)のタイプ及びクラスに於けるアイテム単体でのクラス換算について 4.1 意匠(デザイン)のタイプ及びクラスに於けるロゴで妨げられる面積について 8 図記号の ISO7000-2419 との整合性について</p>	
投票内容	<p>日本からは、改正すべきとして回答し、コメントを付し、エキスパートを指名した。</p> <p>主なコメント:6.2.2 の観測角や度分秒の誤りの訂正、7.2 CIE D65 光源の代替提案 エキスパート:山内 正剛、辻 創、吉井 秀雄、野原 由樹子(※敬称略)</p> <p>投票の結果、改正する方向で議論を開始することになった。</p>	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8127:2020(高視認性安全服) ※追補の内容も反映されている。	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	FDIS : ISO/FDIS 24231	発行年月日： 2024/01/29 投票期日： 2024/03/25
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	
タイトル (日本語)	防護服-降雨に対する防護-上方からの高エネルギー液滴に対する既製の試験方法	
規格内容	<p>中国からの新規国際標準化提案。ヨーロッパで既に運用されている EN 343 を基礎としている。降雨に対する防護服に関する材料、縫合部、表示などの性能要求事項を規定している。 規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 性能評価及び性能要求事項 5 試験方法 6 サイズ 7 マーキング及び表示 8 製造業者が提供する情報 附属書 A(参考) 着用時間に関する推奨事項 附属書 B(参考) 燃料及びオイルへの片側暴露試験装置 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容		
投票内容	コメント付き賛成投票。賛成 25、反対 0、棄権 14 で成立した。	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告①—規格化された ISO について—

番号	ISO 11610:2023	発行年月日:2023/05/15
タイトル (英語)	Protective clothing -- Vocabulary	
タイトル仮訳 (日本語)	防護服—用語	
内容	<p>規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 Clothing に関する用語 5 防護服に関する用語 6 熱及び火炎ハザードに対する防護に関する用語 7 ケミカルハザードに対する防護に関する用語 8 悪天候、風及び寒さハザードに対する防護に関する用語 9 メカニカルハザードに対する防護に関する用語 10 病原体ハザードに対する防護に関する用語 11 ダイビングスーツに関する用語 12 視認性の欠如によるハザードに関する用語 13 静電気の (electrostatic) ハザードに関する用語 14 アークハザードに関する用語 15 選択、使用、ケア、メンテナンス SUCAM に関する用語 16 エレクトロニクスに関する用語 附属書 A (参考 フランス語及びドイツ語 の訳に対する 対応表 参考文献 インデックス</p>	
規格化までの経緯		
本規格に反映された我が国提案の内容	TR 11610 発行後に改訂又は新規制定された防護服分野の ISO 規格で規定された用語や SUCAM に関する用語を追加するよう提案した件など、各種用語の定義に対する提案の多くが採用されている。	
問題点	特になし	
対応 JIS 規格	無し。 * 日本防護服協議会では、TR 11610 の和訳版を作成し発行している。	

2023年度 第1回 ISO/TC 94/SC 13/WG 1 作業部会 議事録

1. 日時：2023年7月25日(火) 14:00~17:00
2. 場所：アゼアス(株) 2F 中会議室 (〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7)
又は Web 会議 (Microsoft Teams を利用したリモート会議)
3. 参加者：16名 ※順不同(敬称略) ※下線の方は Web 参加者
山内 正剛 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構)、野原 由樹子 (アゼアス(株))、村山 孝之 (オラフォルジャパン)、辻 創・三橋 卓也 (カケンテストセンター)、池田 信一郎 (デュポン・スペシャルティ・プロダクツ(株))、安藤 健 (ニッセンケン品質評価センター)、久保 徹也・松浦 智 (日本ゴア合同会社)、吉井 秀雄 (ハイドサイン(株))、小林 恵介 (原田産業(株))、平野 信義 (Mipox(株))、山田 亨 (ミドリ安全(株))、稲井 巡、松村 芳美 ((公社) 産業安全技術協会)、篠原 克明 (信州大学)
4. 議事概要：
議題に入る前にリモート出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いのできる仕組みとなっていることを確認した。
 - ① 山内 WG1 主査挨拶及び委員自己紹介
山内 WG1 主査よりご挨拶頂いた後、WG1 委員及び関係者が自己紹介を行った。
山内主査より議事進行役に野原 WG1 幹事が指名され、議題の審議に入った。
 - ② WG1 上田会議について
WG1 幹事より、WG1 の次回国際会議が、長野県上田市にある信州大学繊維学部のキャンパスをお借りして、次の日程で開催される予定との案内があった。
2023年9月11日(月) 8:30~12:00 TR 19382 の PG 会議
2023年9月11日(月) 13:00~17:30 DIS 24231、DIS 24232 の PG 会議
2023年9月15日(金) 8:30~9:30 WG1 会議
上記会議に参加するためには、事前に GD に登録し、参加登録を行う必要がある。9/13(水) 夕方には GD 登録が無くても参加可能な懇親会が開催される予定である。追って協議会事務局より開催案内が送付されるため、参加を検討頂きたい旨の説明があった。
 - ③ ISO/DIS 24231 (降雨に対する防護服の完成品試験) 及び ISO/DIS 24232 (降雨に対する防護服) について
日本ゴアの久保氏から、規格概要説明及び進捗状況報告があり、その後意見交換等を行った。
本案件は、2019年3月に中国から行われた新規提案である。現在、プロジェクトリーダーは中国とドイツが共同で担っている。GD は 2022 年に可決され、DIS は 2023 年 4 月に賛成多数で可決され、9 か月の審議延長を認める投票も 2023 年 5 月に可決されている。2023 年 9 月の上田会議にて DIS 投票で寄せられたコメントについて審議する予定である。
ISO/DIS 24232 は、基本的には EN 14360(2004) を踏襲している。マネキンのサイズについては ISO においてより明確化され限定される方向になっている。
ISO/DIS 24231 は、基本的には EN 343 (2019) を踏襲している。カナダからライナー素材に対する強度規程を追加すべきとのコメント、ロシアからは耐水度測定の際の素材膨脹時の評価上の課題についてのコメント、ドイツからは前処理の方法について他の ISO 20471

などの規格との整合を求めるコメントなどがあつたため、上田会議で審議される予定。
日本からは投票コメントを出していないが、必要に応じて適宜意見提案を行うこととした。

④ ISO/CD 23762（視認性衣服）について

2022年9月のWG1会議にて、DIS投票へ進むことが可決されたが、ISO 7000(3740, 3741, 3742)に登録されていた図記号が、DIS 23762に規定したいEN 17353の図記号とは異なっていたため、ISO/TC145/SC3に修正を要求している。ISOによる自動キャンセルを防ぐために、2023年3月27日に本案件は一旦中止することが決定した。図記号の修正が完了したら本案件を再開するためのNP投票が開始される予定である。

⑤ SR ISO 20471（高視認性安全服）について

前回の定期見直し（2017年）の際に日本が行ったコメント内容を確認した。当時ペンディングとなったエディトリアルな点については、再度コメントを提出することとした。

日本が前回「上下アンサンプルの重ね位置を規定すべき」とコメントした件については、ヨーロッパからの賛同を得られないと分かっているにもかかわらず引き続き提案すべきとの意見と同じ提案はすべきではないとの意見があつた。

前回の定期見直し投票後、「上下アンサンプルの重ね位置について規定すべき」かどうかを検討するためのプロジェクトグループが生まれ、重ね位置を規定しないことが本当に問題なのか調査が行われた結果、EUでは本件に関連する問題提起が行われたことが無かったこと、認証で上下の重ね位置が問題になったことが無かったことなどが欧米の試験機関より報告され、審議継続への賛同が得られず、プロジェクトが打ち切りとなった経緯がある。その後の日本国内WG1会議においても、面積計算の記載がない方がデザインの自由度があがるのでは、380 mmという数字は日本の成人女子をもとにしているため世界で受け入れられないのでは、などの意見が挙がり、提案を取り下げた経緯もあることから、同じ切り口からの再提案は行わないこととし、別の切り口での提案であれば検討することとした。

⑥ ISO/TR 19382（防護服の快適性評価）について

2022年9月のWG6国際会議にて、韓国から、防護服を着用して所定の作業を行い、動きやすさや快適性を評価するための指針が提案された。本件はWG1で審議することになり、2023年8月25日期日で、WG1エキスパート向け意見照会が行われている。TRとは、技術報告書のことで規定を含まない。また定期見直しが無く、最長有効期間の制限がない。ISO/TR 11610（防護服-用語）のように、多くの防護服のISO規格で引用される可能性があるため、スコープから慎重に議論した。参加者から出た主なコメントは次のとおり。

- ・ 特定の範囲を決めるのか全体を示して指針だけ与えるのか方向性を決めたほうが良い。
- ・ 当初の予定通りWG6で検討したほうがよい。医療従事者用に考えるべき。
- ・ タイトルに「comfort（快適性）」を使わないほうが良い。快適かどうかはユーザーが決める。タイトルからパフォーマンスを取るほうがよい。防護服を着用することによって生じる不快度を測る内容であるため、「生理学的負荷評価」にしたほうがコンフォートにふれなくてよいのではないかと。熱ストレスのはかり方のみを記述すべき。
- ・ スコープは熱負荷の話になっている。SC14マターには触らないほうがよい。
- ・ 防護服着用時に快適かどうかは、暑熱ストレスによるものだけではない。服自体がこすれる音がうるさくてコミュニケーションが取りづらいなど音による快不快もある。

- ・ WG6 のバイオハザード対策用の防護服を選別するときに考慮すべきものとしては熱負荷の優先順位が高かったと思われるが、負荷の度合は作業現場によって千差万別である。屋外か空調が効いているのかでも熱負荷は変わる。塩分の取り方、作業時間、水を飲むタイミングなどの規定がある労働環境と無い労働環境がある。
- ・ 防火などの超特殊環境はそれなりの使用者側の覚悟という条件がある。何用なのか、外部負荷に対するシナリオをスコープにいれておくと分かりやすいかもしれない。
- ・ この規格には評価方法だけを記載すべきである。動作はそれぞれ実施者が考えてやることなので、記述すべきではない。各 WG で標準の動きは決められるのかという疑問がある。WG1 だけでもレイン、高視認など、分野もシチュエーションも様々で作業環境が決められないのではないか。化学防護服のタイプ 1 とタイプ 6 で同じ動きしても全然負荷が違う。一回の負荷が違う。着ているものによって変わってくる。動作自体で規定ができない。差が出てくる負荷の与え方が必要。
- ・ 被験者の感じ方で評価しているところが多いが、同じ人でも答えがかわる。他の国の評価と比較できないのでは。人が行って評価するものでは、被験者がどう感じたか結果がばらつき過ぎる。

まだ回答期日まで日にちがあるため、他に何か意見があれば WG1 幹事まで連絡する。エキスパートは各々の意見を期日までに回答することとした。

⑦ ISO 11610（防護服の用語）について

ISO として 2023 年 5 月に発行された旨の報告があった。

5. 今後の予定

上田会議までに何か追加で審議検討が必要となった場合は、メール審議を行うか又は第 2 回作業部会を開催することとした。

6. 配布資料：

- ① ISO/DIS 24231
- ② ISO/DIS 24232
- ③ ISO/CD 23762
- ④ SR ISO 20471
- ⑤ ISO/TR 19382
- ⑥ ISO-TC 94-SC 13-WG 1_N426_20230711_WG1 Report to SC13_Sept2023
- ⑦ コメントシート：SR ISO 20471
- ⑧ 提案資料：SR ISO 20471
- ⑨ コメントシート：TR 19382

以上

(文責：WG1 幹事 野原)